

## 古事記読書会「弥栄(いやさか)の会」第3回 報告書

開催日 第4土曜日 2018年11月24日(土) 9時半～12時半 開

催場所 中日本建設コンサルタント(株) 東京支社会議室(四ツ谷)

参加者 5名(会員3名、学生会員1名、サポーター1名)

### 内 容

#### (1)参加者自己紹介

#### (2)本日の朗読の進め方(リーダー)

前回の解散時に八岐大蛇にしようかと話しておりましたが、阿部先生の本の構成上、八岐大蛇は最終の第七集になっており、改めて読み直してみると、それまでの背景を味わっていないと言葉の意味も伝わらない大変難しい内容になっておりました。そこで今回は順番どおり第二集「盞結(うきゆい)」を味わいます。前回ご欠席の方ために「赤猪抱き(あかいだき)」も復習したいと思います。

#### (3)朗読

阿部國治著・栗山要編「新釈古事記伝 第2集 盞結」を車座になり全員で順番に輪読。その後、第1集の「赤猪抱き(あかいだき)」に戻る。1時間以上の予定オーバーだった。

#### (4)読後感

- 袋背負いの心を実現するため、学問技術を命がけで習得しようとする大国主命の姿を見て、大学院に進学することに対してあった迷いが無くなりました。勉強をすることは、絶対に悪いことではなく、必死に勉強すればするほど、人の役に立つようになれると考えるようになったからです。大国主命のように、全力で考え、学習し、そして身につけたものを他人の為に使えるようになりたいと思います。
- 大国主命が須佐之男命から与えられた3つの鍛錬。いずれも、「みたましずめ」が重要であり、考えるだけの時間を作る、ということを経験として日常の参考としたいと感じた。
- 盞結は、大変難しい内容でした。「稲羽の素兎(因幡の白兎)」の話から八十神(大国主命の兄達)との嫁とり競争を勝ち抜いて得た八上比賣(やかみひめ)と、赤猪抱きで殺されない修行を技術で支援した須勢理比賣(すせりひめ)との結婚により、二人の妻の間の嫉妬の感情に翻弄されながらも、八上比賣が身を引く、須勢理比賣と「盞結」(盃を取り交わして、心の動いたことを悲しみ合い泣きあって、これからは決して心を動かすことなく、永遠に心の動かぬことを誓い合う)を行ったというお話で、国つくりのためには悲喜交々の感情やその動きを大切に永遠の心を掴んでいかなければならないのではないかと思います。大国主命と須勢理比賣の盞結のお話の後に、「大国主命は、国つくりのために、それぞれの土地に沢山の奥さんと子供の神様がいます」というお話が続きます。それぞれの土地ごとに国づくりに欠かせない技術は異なり、その土地のことを知り尽くした神様と一緒に心をつなげて取り組む必要がある、ということなのではないかと考えました。今の自分には、そのように思えてなりません。
- 大国主命がますます成長(おこがましいですが)していく様子が示されつつ、一方で夫婦間の愛情について書かれていて、自分の心も揺れ動きました。これは間違いなく、と感じたことは、「技術は人の幸福のためにある」ということで、日ごろ肝に銘じていることが古事記に書かれていたことが嬉しかったです。また、随所に「袋背負い」で出てきた言葉が使われていて、もう一度読み直したいと思いました。

少し脱線しますが、大河ドラマの西郷どんが最終回を迎えました。西郷さんはまさに「赤猪抱き」を実践した人ですね。切なかったです。

次回予定 2019年1月26日(土)9時半～11時@中日本建設コンサルタント(株)会議室

次回は順番どおり「第三集 天岩屋戸」を味わいたいと思います。みなさま、どうぞ良いお年を。

以上